

6月定例議会

平成25年6月議会定例会は6月5日から7日までの日程で開かれ、次の内容について審議され可決されました。概要は次のとおりです。

1 一般会計補正

平成24年度一般会計予算に8321万円を追加し予算総額を5億8561万円とする専決処分が承認されたほか、平成25年度一般会計予算に2407万円を追加し予算総額を48億6207万円としました。

2 条例の制定

町税条例の一部改正
国民健康保険税条例の一部改正
災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正

3 財産の取得

図書3750冊、除雪ドーザー11t級1台、5t級1台、小型除雪車1・3m級1台、消防ポンプ車1台

4 契約の締結

役場庁舎（議場棟）耐震補強工事請負契約の締結

一般質問



西塔いく子 議員

① なかやま保育園運営検討委員会
答申を受けての町の考え方は

子ども・子育て新システム
関連3法案が成立し、保育
制度への影響を不安視する声が出
されているが、なかやま保育園は
町に1つの保育園であり、より子
どもや保護者に喜ばれるものでな
ければならないと思っている。全
国的には、待機児童の解消のため
の、数合わせのような詰め込みや
株式会社化など、良い保育ができ
るのか大変不安なところもある。
そのような中、「なかやま保育
園運営検討委員会」の答申が出さ

望に添って処方薬を取り寄せるこ
とも考えられますが、そうでない
場合は近隣市町を含む生活圏内の
保険調剤薬局を利用していただき
たいと考えています。

町ではジェネリック医薬品
使用を推進しているが、町
内の医療機関には積極的なところ
とそうでないところがあると思わ
れる。一方で、医師には専門があ
り、厚生労働省や医師会等による
「かかりつけ医を持ちましよう」「専
門医を受診しましよう」という以
前からの推進策に合致していない
のが、中山町の医療事情だと思わ
れる。

「かかりつけ医を持つ」「専門医
を受診する」「ジェネリック医薬
品推進」という、矛盾する3つの
推進策をどう考え、解決策を考え
ているか伺いたい。

かかりつけ医を持つことは、
症状に応じて町内外の専門
医に紹介していただけるとい
う面で大切なことと考えています。
ジェネリック医薬品の推奨は、先
発医薬品を良しとして処方する
医師の

判断に立ち入るものではありません。
3つの推進策は、矛盾する施策
とは認識しておりませんし、解決
策も考えておりません。

日本薬剤師会が推進してい
る「かかりつけ薬局」を持
つことは、重複投与の防止や、医
療費の節約、飲み合わせによる副
作用を未然に防ぐなどのメリット
がある。一般医薬品のネット販売
が解禁されようとしているが、調
剤薬局では処方薬だけでなく、市
販薬や普段服用している健康食品・
サプリメント類等との飲み合わせ
についても相談に応じてくれる。
近隣市町で保険調剤薬局がない
のは中山町だけであり、町民の安
全安心や利便性の点から、町内に
保険調剤薬局を誘致してはどうか。

かかりつけ薬局を持つこと
は服薬管理等のメリットが
ありますが、院外処方調剤薬局
まで足を運ばなければならぬ煩
わしさや、場合によっては院外処
方より患者の自己負担が増えるこ
とも指摘されています。

町議会だより

6月定例議会

平成25年6月議会定例会は6月5日から7日までの日程で開かれ、次の内容について審議され可決されました。概要は次のとおりです。

1 一般会計補正

平成24年度一般会計予算に8321万円を追加し予算総額を5億8561万円とする専決処分が承認されたほか、平成25年度一般会計予算に2407万円を追加し予算総額を48億6207万円としました。

2 条例の制定

町税条例の一部改正
国民健康保険税条例の一部改正
災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正

3 財産の取得

図書3750冊、除雪ドーザー11t級1台、5t級1台、小型除雪車1・3m級1台、消防ポンプ車1台

4 契約の締結

役場庁舎（議場棟）耐震補強工事請負契約の締結

② 市民農園開設の進捗状況は

お知らせ版で募集を行い試験的に市民農園が開設されたが、耕作放棄地が増加し、団塊の世代の退職が進む現在、タイムリーな取り組みだと思っている。市民農園の概要や開設後の状況、見えてきた課題などがあるか伺いたい。

町では2月のお知らせ版で貸し手と借り手の希望調査を行い、その調査結果をもとに農業委員会が試験的に市民農園の開設を進めたものです。5月中旬、あおば地区に市民農園1箇所を開設し、約500㎡の面積の中に40㎡の区画を8区画整備しています。現在は6名が入園されており、5月から12月までの使用期間で1区画の使用料は3000円となっています。

課題としては、駐車場の確保や農業指導者の確保、水利の確保、開設者による農園の管理等が考えられますが、あおば地区の市民農園は問題もなく順調にいらっています。

① 院外処方箋について



渡辺 博文 議員

町内の医療機関を受診し、より大きな総合病院等を紹介してもらう場合があるが、治療により症状が改善されれば、逆に紹介状を持って初診を受けた町内の医療機関に戻ることになる。病院の処方薬がその医療機関になれば、院外処方箋を発行される場合もあるが、町内には院外処方箋受付を行っている保険調剤薬局は1軒もない。このことで不便を感じている方が沢山いると思われるが、その解決策を考えているか。

町内の病院や診療所で、全ての処方薬を配備するのは困難であり、病院療養から戻った場合の薬の一部については、処方箋による院外処方となるのはやむを得ないと認識しています。不便を感じている町民の方がいらっしやることは承知していますが、沢山いるとは考えておりません。病院や診療所の側で、患者の要

求められている答申だと読ませていただいた。子どもを育てやすい環境づくりのためには、公設公営を貫き通していくことが、若い人が定住し少子化への歯止めにもなると考えているが、町の考え方を伺いたい。

今年の3月下旬にいただいた答申は、民間の競争力や自由な発想力、獨創性など民間の良い点を十分取り入れる一方、公立としてこれまで培ってきた中山町らしい保育や伝統をできるだけ継承する保育を期待する内容になっています。

町としては、今回の答申を真摯に受け止め、答申にできるだけ沿った形で、なかやま保育園の運営を行いたいと考えています。今後とも、安全安心な保育を心がけ、保育の質の向上とサービスの拡充を図り、入所決定や保育料の決定・徴収等は、これまでどおり町が責任を持って対応したいと考えています。